

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36 (14)	方言を交えながらのコミュニケーションをしているが、「しなっせ」「せなんたい」などの命令口調が無意識の中から発してしまう場面がある。介護者としての立場と、利用者が人生の先輩であるとの敬意が反転してしまう。 認知症の重度化による言動に介護者が対応できずストレスを感じてしまい、つい、命令型の口調になってしまう。	親しい後輩として、方言を使ったコミュニケーションを大切にしながらも利用者が日々楽しい生活が送れるケアを目指したい。	県内の方言でも、優しい表現と、ぶっきらぼうな表現が地方によって存在し、介護者自身も気付かないことがある。運営者を含めて、持続的な勉強会を実施し、会話力を深めていきたい。	随時
2	4 (3)	運営推進会議は定例的に実施しているが、家族参加が固定化されている。出席されない家族によっては、直接介護と無関係な相談やホームへの不理解が多かったりする。	リスク説明と、ひやりはっと報告を前面に、より時間を使用して当時の具体的内容説明を行っているが、家族理解(出席されない)を得られていない。精力的な参加呼びかけを行ない、ホーム・家族が一体となった運営にしたい。	毎回、会議開催通知を行なっている。参加家族の固定化は否めないが、徐々に参加族が増加している。多数家族の参加ができるよう継続して通信誌や、案内文書で積極的参加を促したい。	偶数月
3	27	介護記録の取り方は、前年7月から9月にかけて集中的に勉強会を実施してきたが、記録(記録者名・記録された内容等)付けに個人差が生じている。	個別の介護記録は、利用者の生活行動・排泄パターン・服薬・バイタルなど利用者個々の心身状態が把握できることから医療機関受診の際にも十分活用できるものとなっているため、記録手法の統一性を行いたい。	本年度においても、勉強会を実施し、記録の重要性を職員に再認識させたい。	随時
4					ヶ月

